

しが 県博協だより

第30号

滋賀県博物館協議会

しが県博協だより第30号は、創立35周年を迎えた県博協の記念事業について、また、昨年度開催した2回の研修事業「作品（資料）の本質と魅力を導く展示手法」および「博物館・美術館におけるSNSを使った情報拡散の傾向と対策」、平成29年度永年勤続者等表彰事業の報告、あわせて昨年度本協議会に新規加盟した館の紹介を掲載いたします。

滋賀県博物館協議会 創立 35 周年記念事業報告

日 時：平成 29 年（2017）11 月 19 日（日）
13:00～16:30
開 場：野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）
参加者：76 名
（一般 51 名、講師・県博協関係者 25 名）
参加館：15 館
（記念委員、研修委員、広報委員、事務局含む）

①記念講演会

「旅と博物館—博物館の^{たの}しみ方—」
講師：高田公理氏（武庫川女子大学名誉教授）

概 要：

古来、人類が旅をする理由は、人口増加、食糧不足、国家間戦争、宗教上の理由などさまざまです。時に旅は、学問や芸術を学ぶことができ、好奇心が触発されます。現代人も、日常生活に疲れたとき、ふと日常と異なる自然や風景、暮らし、文化など、新たな興味が喚起されることがあります。その土地ごとの料理や酒、人との出会い、時にトラブル、未知の風景、そのような体験が、新しい活力を生み出してくれます。

滋賀県には琵琶湖があります。例えば、近江八幡水郷の舟遊びでは、ヨシに囲われた川縁を舟で進むことで、舟の櫂や水鳥の羽音だけが聞こえる、都会では体験できない静けさを味わうことができます。この体験をさらに深めるためにあるのが、博物館での体験です。水郷の静けさの体験は、琵琶湖博物館の自然と暮らしを追った展示を見学すれば、よりさまざまな「気付き」を生み出します。



講師を務められた高田公理氏

この琵琶湖を有する滋賀県には、県博協加盟館 69 館を中心に多くの博物館が点在しています。そのため、仏教美術、戦国時代、街道文化、近江商人、東洋・西洋美術…多角的な分野から、博物館を巡ることができ、各博物館では、歴史・美術にふれる知的体験だけではなく、非日常的な体験をすることができます。旅先で体験したことの意味を博物館で捉え直すことができます。

旅や博物館での体験とその意味を考えるにあたり、キーワードとなるのが「観光」です。「観光」は、『易経』に「国の光を観る」こととされます。一国の王は、諸国を巡って、「国の光」を見て、自らの国に帰って「国の光」を「示す」ことに努めなくてはなりません。かつて明治 4 年（1871）の岩倉具視を中心とした使節団は、米欧 12 カ国の視察旅行に出掛けました。その訪問は、知識を世界に求め、先進国に後れをとった日本に近代文明をもたらすための視察旅行であり、まさに「観光」といえるものです。現代は、私たちも「観光」を楽しむ時代です。「観光」で体験したことは、日常の暮らしに活かすことができます。日本は現在、観光立国を目指しています。も

ちろん、利点ばかりではありません。「観光」には、博物館で体験することも含まれます。この滋賀県でも、琵琶湖や各地にある「光」を、博物館で学び、楽しむことで、私たちの日常の暮らしを少しでも豊かにできるはずです。

②座談会

「みんなで語る！滋賀県の博物館と旅・観光」

パネリスト：

高田公理氏（武庫川女子大学 名誉教授）

篠原 徹氏（琵琶湖博物館 館長）

八杉 淳氏（草津市立草津宿街道交流館 館長）

南部暁子氏（MIHO MUSEUM 海外広報担当）

司会 和澄浩介氏（滋賀県立近代美術館 学芸員）



座談会のパネリスト

概要：

座談会は、講演者の高田氏と3名のパネリスト（篠原・八杉・南部）により進行しました。内容は大きく分けて、（1）観光に博物館を組み込むメリット、（2）滋賀県にある博物館の特徴、（3）博物館の連携、（4）滋賀県らしさを知ることができる観光、それに寄与する博物館、以上4点について話題が及びました。

（1）観光に博物館を組み込むメリット

博物館は、地域の社会・文化・自然を知る入口であり、まず博物館に行くことでその地域を知ることが出来る場所であり（篠原）、多種多様な博物館が存在する中で、中・小規模の地域に根付いた博物館は、地方の人びとの暮らし・文化に光を当てる役割があり、地域に密着していることに特徴があります（八杉）。このことは、海外の博物館にも同じような傾向が見え、海外からの来館者が、交通の便があまり良くない立地の博物館に足を運び、道中の山々の自然の景色を楽しみ、自然と共存した博物館の建物を楽しむケースが増えてきています（南部）。

（2）滋賀県にある博物館の特徴

まず京都と比較すると、京都は美しい風景・街並みを多く有していますが、人工的なものも多く、一方で滋賀県は、自然の風景を大切にしている印象を持ちます（高田）。また県内には、主要街道が通り、宿場街も多く残っていますが、宿場街は一箇所では完結せず、街道を通じて街同士が連携をしてきた歴史を持ちます。このような歴史を踏まえ、博物館としても、街道沿いの博物館同士、都市間交流を推し進めようとしなくてははいけません。宿場街は観光地化した場所もありますが、生活の一部として今も存在している場所でもあり、「変わらない」文化といえます（八杉）。

（3）博物館の連携

観光客は、複数の博物館を見学する傾向があり、これからは客層が異なる博物館と美術館がより多くの交流を求められますし、学校や福祉施設、企業な



熱心に聞き入る来場者の皆さん

どの異業種との交流を行うべきです（篠原）。過去の実績もありますが、加盟館のスタンプラリーなど、「集める」ことを売りにした、コレクター心理に訴えかけるイベントを開催してより連携を深めることが大切です（高田・篠原・八杉）。

また、館内に併設するレストランやミュージアムショップを博物館一体として捉え直し、来館者が見学後に体験を持ち帰る、反芻することができるような付加価値を付ける必要があります（篠原）。MIHO MUSEUM の場合、海外からの来館者は健康志向が強く、彼らに向けてレストランなどで健康食を提供したところ、利用者に食材や器など別の興味を引き出させることができ、他機関との連携を生むことが出来るようになり、観光のスポットとして定着した事例もあります（南部）。

（4）滋賀県らしさを知ることができる観光、それに寄与する博物館

滋賀県らしさを知ることができる観光の目玉は琵琶湖ですが、琵琶湖の歴史・自然を学び教える機会を、現状の学校教育に増やすべきです（高田）。また滋賀県には、歴史的な風土が県全域に広がっており、滋賀県に潜在的に眠っている文化・風土を紹介する場所が博物館であり、その風景と一体化していることが、滋賀県の博物館らしさであるといえます（篠原・八杉）。そして、地元の人が大切にしているもの

に敬意を払い、地元に残されたものを大切に保存し継承していくことが博物館の役割だと思います（南部）。

司会者が最後にまとめてくれたように、地域の文化・自然・魅力を知ることができる場所こそ博物館であり、観光の一環として博物館を体験することで、日常の暮らしに豊かさが広がっていく、そのような場所を目指すのが、博物館の使命であると実感しました。一館では観光のスポットには成り得ず、博物館同士、他機関との連携は必須であり、その連携を生み出す「仕掛け」を、私たちは日常の業務の中で考えなくてはならないと再認識した時間となりました。

（公益財団法人日本習字教育財団 観峰館
寺前公基）

平成29年度 研修事業実施報告

第1回研修事業

「作品（資料）の本質と魅力を導く展示手法」

講師：津屋 修氏

（MIHO MUSEUM 主任学芸員 保存・展示室長）

日時：平成29年（2017）10月27日（金）

13：30～16：30

場所：MIHO MUSEUM レクチャーホールほか

参加者：25名

（加盟館16名、会長・事務局長2名、研修委員7名）

参加館：18館

趣旨：

展覧会において、作品（資料）を通して展覧会の企画意図を表現する展示やレイアウトは、来館者が直接目にする最も重要な部分です。それぞれの作品（資料）の本質や魅力を引き出す演出力は、学芸員の資質向上に不可欠な技能といえます。

いかに作品の安全性を確保しながら、より美しく鑑賞しやすい環境をつくりだせばよいのか。今回は作品の展示手法をテーマに、具体的手法を学ぶとともに、知識や経験を共有し、技能研修の要素を兼ねた情報交換会としました。

1. 講演概要

今回のテーマについて講演者が重要と考える、展示レイアウト、照明、マウントという3つの点にしぼっての講演がありました。以下、講師の言葉を中心として概要をまとめます。

1) 展示レイアウト

バランスの取れた美しい展示をするために適切なレイアウトが重要です。美しい展示とは、それぞれ

の館でコンセプトなどが異なると思いますが、ここでは当館（编者註：MIHO MUSEUM のこと）を例に挙げ、参考にさせていただきたいと思います。

私たちは展示の前に、ケースの図面に作品をレイアウトしてみます。安心感、心地よさなど感覚的なものを考慮しながらレイアウトをしていく間に、図のように自然と三角形に近い配置に収まる 경우가多くあります。（図1）

また、作品の大きさも関係します。大きな作品が高い所にあると不安定な印象を与えてしまうからです。

先に図面上でレイアウトしておくことで、展示する際、作品に必要以上触れることがなくなり、作品に負荷をかけなくて済みます。図面上でのレイアウトは手間がかかりますが、展示業者への仕様書にも反映でき、事前に展示のイメージができるので、大変合理的であると考えています。

2) 照明

照明、ライティングは、単に見るためだけでなく、作品の魅力を引き出す大切な道具です。そのため、光の角度、強さ、色温度、演色性などを考慮して器具を選定します。

例えば、中国・山東省の仏像。（図2）照明を調整する前は、汚れの方が目立ってしまい、平坦な光となり表情なども読み取れませんが、照明により表情が格段に変わり、彫刻の陰影もはっきり見え、仏像の持つ精神性までも引きだしているようです。

また、浮彫作品（石床屏風）を例に、蛍光灯とスポットライトの違いを見ていただくと違いが一目瞭然です。作品の特徴を理解して照明を決めることが大切です。

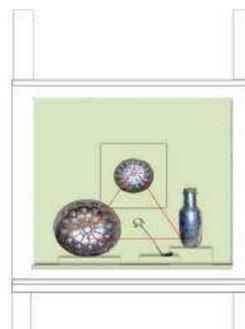


図1 三角形の含まれたレイアウト



図2 照明の効果（左：調整前 右：調整後）

3) マウント（オリジナルの支持具）

ここでいうマウントとは、作品を美しく安全に展示するための支持具のことです。

ひとつの例として、エクアドルの魚の形状をした容器を見ます。見る人が360度鑑賞できて、容器であることが分かるようにしたいというリクエストがありました。その結果、容器の内側に添った目立たないマウントを製作して展示しました。外側で支える方が簡単ですが、シンプルでより美しくかつ安全な方法を選び、リクエストをクリアできたと考えています。（図3）



図3 容器を内側で支えるマウント

ポイントは、美しく見せる、安全に展示することです。そのために、マウントはできるだけシンプルで目立たないものを作り、作品の形にピッタリ添った形状にします。そうすることで、作品がマウントでしっかりと固定され、振動によりマウントで作品を傷つけてしまうことを防ぐこともでき、作品の美しさが際立つようになります。（図4）



図4 マウントの製作

固定の基本は、目立たなく最小限の固定である三点支持です。また、取り付け、取り外しが簡単であることも重要で、作業中の事故を減らすことができます。同じように、長時間にわたり作品に密着するためマウントの材質の選択には考慮が必要です。そして、適切なものを造るためには、作品を手に取り製作する必要があるので、作品の取扱いが安全にできることも大変重要です。

2. 展示室・作業室の見学

講演の後、美しい展示とは何だろう、安全な展示とは何だろう、という視点でMIHO MUSEUMの展示台の配色やライティング、展示の具体的な方法・器具などを実際の展示室で質疑応答を行いながら見学しました。

作業室では、初めにマウント製作の材料の説明と一部実演が行われ、そののち、質疑応答や情報交換が行われました。質疑では、海外の状況や資格、人員配置などの情報交換から、各館で問題となっている具体的な作品の展示方法へのアドバイスなど、活発な発言が出ていて、関心の高さが伺われました。

3. 参加しての所感

各館の置かれている状況や環境はそれぞれ異なりますが、美術品（資料）を来館者に見せるという点は、ほぼ一致していると思います。その意味でもポイントである、「レイアウト」、「照明」、「美しく安全な資料の固定」の3つのポイントは多くの館で参考になったのではないのでしょうか。

また、今回の情報交換会をきっかけに、各館の得意分野の展示に関するノウハウを共有する横のつながりができ、県博協加盟館へ来館されたお客様の満足度の向上につながることを期待します。

（MIHO MUSEUM 桑原康郎）

第2回研修事業

「博物館・美術館における SNS を使った情報拡散の傾向と対策」

講師：藤川明宏氏（福井市文化財保護課）

日時：平成30年（2018）2月6日（火）

13：30～16：30

場所：大津市歴史博物館 講堂

参加者：44名

（加盟館35名、会長・事務局2名、研修委員7名）

参加館：22館

概要：

近年、TwitterやFacebook、InstagramなどのSNSを活用した広報活動が盛んに行われています。しかし、各SNSの特性を理解し、上手に楽しく使いこなせている館はまだ少ないのではないのでしょうか。

今回の研修では、実際に SNS で大変な反響を呼び、多くのフォロワーも生み出した「三角縁神獣鏡チョコレート」の仕掛人、福井市文化財保護課の藤川明宏氏をお招きし、SNS を使った情報拡散についてお話をいただきました。

まずは近年話題になった展覧会と SNS との関係について紹介がありました。「刀剣ブーム」はその代表的な事例です。さまざまな日本刀を擬人化した「刀剣男士」たちが登場するゲーム、「刀剣乱舞」のヒットにより、実際に刀剣を見るべく美術館・博物館を訪れる新たな鑑賞者がうまれました。このブームによって、所蔵品の刀剣を Twitter で紹介したり、展示されている刀剣を撮影可能にし、SNS 上での情報拡散をねらう館も登場しました。こうした取組みを通じ、過去最高の来館者数を記録した館もあるそうです。

この他にも、ニコニコ動画をつかった広報活動についても話がありました。昨年秋に京都国立博物館で開催された「国宝展」では、永青文庫副館長の橋本麻里氏と京都国立博物館の研究者によるニコニコ動画上で行われたトークが話題になりました。研究員一人ひとりの人柄を垣間みられる点が特に好評だったようです。なお、橋本氏は Twitter のフォロワー数も多く、強い情報発信力を持つ「インフルエンサー」としても有名です。「インフルエンサー」に情報をつかんでもらい、広めてもらうよう工夫することも、重要なポイントということでした。

つづいて、福井市郷土歴史博物館で行われている「三角縁神獣鏡チョコレート」をつくるワークショップと、その展開についてお話がありました。本ワークショップは古代の鑄造を体験するべく始まったもので、本物そっくりな見た目から SNS 上で大反響となり、参加希望者が殺到する大人気企画となりました。このワークショップで興味深いことは、活動時間外も参加者たちが自発的に SNS 上で情報発信を行ったことでしょう。たとえば、ワークショップに行くまでの様子を SNS 上で実況中継したり、つくり終えたチョコレートを持って寺社や観光地に赴いた方がいたそうです。参加者の活発な情報発信によって「三角縁神獣鏡チョコレート」の認知度が上がり、その完成度と発信力の高さから、各地の美術館・博物館でも同様のワークショップが開催されるまでになりました。三角縁神獣鏡チョコは、企画自体の魅力に加え、SNS が効果的に使われたことによって大きな広まりを見せた、代表的な事例と言えるでしょう。

他にも福井市郷土博物館では、ブロガー向けの内覧会や仏像メイク、仏像ダンスといった SNS での情報発信を念頭においた企画を多く開催し、実績を積んでいます。とくに仏像ダンスは、Twitter 上の交流から生まれた企画ということです。この話を聞き、今日では意識的に SNS を使うことで館と人との新しい繋がりが生まれ、それがこれまでにない切り口の事業に繋がっていくことを感じました。

このように大変魅力的に見える SNS ですが、いく

つか留意する点もあります。たとえば、画像をインターネット上に掲載する際の権利関係には気を配ることが大切です。一度ネット上にあがった画像は、発信側の意図とは異なる使われ方をされる場合もあるので、注意する必要があります。間違った発信を防ぐためには、正確な情報を慎重に伝える姿勢が求められます。

こうした点には十分に注意しなければいけません。SNS の最大の魅力は双方向のやりとりができることです。従来の広報は、情報を一方的に発信していることが多く、効果や反応が見えにくい点があったのではないのでしょうか。しかし SNS を活用すれば、受け手側の反応をダイレクトに感じるすることができます。そしてこれまで美術館や博物館に来たことがなかった新しい来館者層にも、情報が届く可能性があります。インターネットメディアが日進月歩で進化する昨今、それらを使いこなすことは容易ではありません。しかし、藤川氏から「地道な情報発信を続けていくことで確実にファンは増える」という言葉があったように、発信する側も楽しく賢く SNS に親しむことで、美術館・博物館の魅力がより多くの人に伝えられる可能性がある、強く感じた研修会でした。

(滋賀県立近代美術館 渡辺亜由美)



講師の藤川氏



三角縁神獣鏡チョコレート

平成29年度 永年勤続者等表彰

平成29年度は、滋賀県平和祈念館の坂井秀男（さかい ひでお）さん、甲賀市甲南ふれあいの館の橋本栄美子（はしもと えみこ）さん、長浜市曳山博物館の川村典子（かわむら のりこ）さんの3名が「永年勤続表彰」を受賞されました。

坂井さんは、戦死されたご自身の父親のことをきっかけとして戦争体験者からの聞き取りや記録する業務に取り組み、これまでに470件以上を積み重ねてこられました。その人柄や勤務態度は他の職員の模範となり、平和祈念館にとって他に替えがたい人材といえます。平成23年（2011）にはNHK「おうみ発 610」に取り上げられ、地道に業務を遂行される姿が紹介されました。

橋本さんは、長年、甲賀市甲南ふれあいの館での来館者案内や施設運営、展示会活動に貢献されています。地域の特色をとらえた、わかりやすい説明は来館者からも高い評価を受け、他の職員の模範的な存在といえます。また、館蔵品である重要有形民俗文化財「近江甲賀の前挽鋸製造用具及び製品」の資料整理や調査補助にも従事され、当該資料の文化財指定への貢献は何ものにも替え難いものがあります。

川村さんは、曳山文化協会職員として13年にわたり曳山博物館に勤務されています。主に財務・会計業務を担当され、長浜曳山祭の保存伝承事業や博物館の運営に携わってこられました。平成28年（2016）の長浜曳山祭の「ユネスコ無形文化遺産」登録など、長浜曳山祭をはじめとする長浜の歴史や文化の継承と発展に尽力され、他の職員の模範となっています。

（事務局・長浜市長浜城歴史博物館 福井 智英）

新規加盟館紹介

菩提寺歴史文化資料室



所在地	〒520-3248 湖南省菩提寺西四丁目2-12 菩提寺まちづくりセンター内
電話番号	0748-74-3471
ホームページ	https://www.facebook.com/mus.bodaiji
休館日	祝日、お盆休み、年末年始 ※土・日は休館日もあるため事前にお問い合わせください。
開館時間	9:00～17:00
入館料	無料
交通案内	JR 草津線石部・甲西駅から市営コミュニティバス「菩提寺線」で、「菩提寺駐在所」下車 JR 琵琶湖線野洲駅から滋賀交通バス「湖南野洲線」の「西菩提寺」停留所下車
駐車場	60台
館の概要	地域住民による手造りの〈まちかど博物館〉

平成27年（2015）4月に〈菩提寺まちづくりセンター〉が開館したのと同時に「菩提寺歴史文化資料室」をオープンしました。

菩提寺には、国や市指定の石造文化財が多く、白洲正子の紀行文『近江山河抄』にも紹介され広く知られるところであり、また西應寺に伝わる「廃少菩提寺古絵図」は、1300年前の菩提寺の様子を知る資料として、湖南省指定文化財にも指定されています。

古代の「菩提寺」は、「東山道」や「阿須波道」等の幹線道路が集まる交通の要衝であり、政治の中心地として栄えたと『甲賀郡志』に書かれています。

「菩提寺歴史文化資料室」は、古墳時代から近世までのそれぞれの時代における歴史文化のあゆみ、

誰がこの地を治め、当時の人々の暮らしぶりはどうだったのか、史実に向き合う視点で時代の流れを表現した展示を心掛けています。

(滋賀県博物館協議会ホームページより)

【編集後記】

平成29年度は、県博協創立35周年という記念すべき年にあたりました。記念事業委員会では魅力ある講演会、座談会を企画し、県博協加盟館はもちろん一般の方々にも多数ご参加いただくことができました。広く県民のみなさまに活動を知っていただくためにも、より積極的な広報活動を検討したいと思っています。

研修委員会では、加盟館メンバーの学芸員スキルを磨いていく観点で2回の研修会を企画しました。昨年度は博物館の重要な任務である作品の保存、そして昨今活発な活用が求められるSNSを使った広報についてそれぞれ大変有意義な研修会が行われました。

広報委員会では、毎日新聞に隔週で掲載されている「名品手鑑」を取りまとめています。2週に1回やってくる〆切の対応は大変ですが、各館の魅力溢れる原稿に触れることができ、改めて県内の美術

館・博物館の豊かさを実感します。また、より充実したホームページの活用を目指すべく、昨年度はすべての加盟館の基本情報の修正・確認を行いました。ご協力いただいた皆さまに今一度お礼を申しあげるとともに、引き続き積極的なご参加をいただきますよう、何卒宜しく願いいたします。

委員一同、県博協が加盟館のみなさまにとっての活発な交流・活動の場となるよう取り組んで参りますので、さらなるご支援ご協力、またご意見などをお寄せくださいますようお願い申し上げます。

(広報委員・滋賀県立近代美術館 渡辺亜由美)

しが県博協だより 第30号
 平成30年(2018年) 6月22日発行
 編集・発行 滋賀県博物館協議会
 〒526-0065長浜市公園町10-10
 長浜市長浜城歴史博物館内
 TEL 0749-63-4611
 URL <http://sam.shiga.jp/>

平成30年度滋賀県博物館協議会 加盟館名簿

平成30年5月16日現在

会 員 館 名	郵便番号	住所	TEL	FAX
近江神宮時計館宝物館	520-0015	大津市神宮町 1-1	077-522-3725	077-522-3860
大津市歴史博物館	520-0037	大津市御陵町 2-2	077-521-2100	077-521-2666
大津絵美術館	520-0036	大津市園城寺町 33 番地 総本山円満院門跡	077-522-3690	077-522-3150
長等創作展示館・三橋節子美術館	520-0035	大津市小関町 1-1	077-523-5101	077-523-5101
大津祭曳山展示館	520-0043	大津市中央 1-2-27	077-521-1013	077-521-1013
滋賀県立琵琶湖文化館	520-0806	大津市打出浜地先	077-522-8179	077-522-9634
渡来人歴史館	520-0051	大津市梅林 2-4-6	077-525-3030	077-525-3450
公益財団法人 膳所焼美術館	520-0837	大津市中庄 1-22-28	077-523-1118	077-523-1118
建部大社宝物殿	520-2132	大津市神領 1-16-1	077-545-0038	077-545-2438
滋賀県立近代美術館	520-0807	大津市松本 1-2-1 滋賀県大津合同庁舎 5F	077-522-2111	077-522-2188
田上郷土史料館	520-2112	大津市牧 1-8-32	077-549-0369	077-549-0369
田上鉦物博物館	520-2275	大津市枝町 3-8-4	077-546-1921	077-546-1921
木下美術館	520-0016	大津市比叡平 2-28-21	077-575-1148	077-575-1148
比叡山国宝殿	520-0116	大津市坂本本町 4220	077-578-0001	077-578-0678
伊香立「香の里史料館」	520-0352	大津市伊香立下在地町 1223-1	077-598-2005	077-598-2005

大津市科学館	520-0814	大津市本丸町 6-50	077-522-1907	077-522-2297
草津市立草津宿街道交流館	525-0034	草津市草津 3-10-4	077-567-0030	077-567-0031
守山市ほたるの森資料館	524-0051	守山市三宅町 10 市民運動公園内	077-583-9680	077-583-9680
守山市立埋蔵文化財センター	524-0212	守山市服部町 2250	077-585-4397	077-585-4397
滋賀県立琵琶湖博物館	525-0001	草津市下物町 1091	077-568-4811	077-568-4850
佐川美術館	524-0102	守山市水保町北川 2891-44	077-585-7800	077-585-7810
栗東歴史民俗博物館	520-3016	栗東市小野 223-8	077-554-2733	077-554-2755
国指定重要文化財「大角家」住宅旧和中散本舗	520-3017	栗東市六地藏 402	077-552-0971	077-552-0971
湖南省東海道石宿歴史民俗資料館	520-3116	湖南省雨山 2-1-1	0748-77-5400	0748-77-5401
菩提寺歴史文化資料室(菩提寺まちづくりセンター内)	520-3248	湖南省菩提寺西 4-2-12	0748-74-3471	0748-74-4005
びわ湖アートギャラリー	524-0292	野洲市吉川 4187 鮎家の郷内	077-589-3999	077-589-4806
野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)	520-2315	野洲市辻町 57-1	077-587-4410	077-587-4413
甲賀市水口歴史民俗資料館	528-0005	甲賀市水口町水口 5638	0748-62-7141	0748-63-4737
みなくち子どもの森自然館	528-0051	甲賀市水口町北内貴 10	0748-63-6712	0748-63-0466
甲賀市土山歴史民俗資料館	528-0211	甲賀市土山町北土山 2230	0748-66-1056	0748-66-1067
甲賀忍術博物館	520-3405	甲賀市甲賀町隠岐 394	0748-88-5528	0748-88-2108
甲賀流忍術屋敷	520-3311	甲賀市甲南町龍法師 2331	0748-86-2179	0748-86-7505
甲賀市甲南ふれあいの館	520-3321	甲賀市甲南町葛木 925	0748-86-7551	0748-86-7551
甲賀市信楽伝統産業会館	529-1851	甲賀市信楽町長野 1142	0748-82-2345	0748-82-2551
滋賀県立陶芸の森 陶芸館	529-1804	甲賀市信楽町勅旨 2188-7	0748-83-0909	0748-83-1193
MIHO MUSEUM	529-1814	甲賀市信楽町田代桃谷 300	0748-82-3411	0748-82-3414
滋賀サファリ博物館	529-1802	甲賀市信楽町黄瀬 2854-2	0748-83-0121	0748-83-0122
かわらミュージアム	523-0821	近江八幡市多賀町 738-2	0748-33-8567	0748-33-8722
滋賀県立安土城考古博物館	521-1311	近江八幡市安土町下豊浦 6678	0748-46-2424	0748-46-6140
近江日野商人館	529-1603	蒲生郡日野町大窪 1011	0748-52-0007	0748-52-0172
近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」	529-1628	蒲生郡日野町西大路 1264	0748-52-0008	0748-52-3850
世界風博物館東近江大風会館	527-0025	東近江市八日市東本町 3 番 5 号	0748-23-0081	0748-23-1860
木地屋民芸品展示資料館	527-0201	東近江市蛭谷町 178	050-5802-3313	
日登美美術館	527-0231	東近江市山上町 2068-2	0748-27-1707	0748-27-1950
東近江市近江商人博物館	529-1421	東近江市五個荘竜田町 583	0748-48-7101	0748-48-7105
観峰館	529-1421	東近江市五個荘竜田町 136	0748-48-4141	0748-48-5475
滋賀県平和祈念館	527-0157	東近江市下中野町 431 番地	0749-46-0300	0749-46-0350
手おりの里、金剛苑	529-1204	愛知県愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131	0749-37-4131
愛荘町立歴史文化博物館	529-1202	愛知県愛荘町松尾寺 878 番地	0749-37-4500	0749-37-4520
愛荘町立愛知川びんてまりの館	529-1313	愛知県愛荘町市 1673	0749-42-4114	0749-42-8484
豊会館	529-1174	犬上郡豊郷町下枝 56	0749-35-2356	
多賀町立博物館	522-0314	犬上郡多賀町四手 976-2	0749-48-2077	0749-48-8055
ダイニックアストロパーク天究館	522-0341	犬上郡多賀町多賀 283-1	0749-48-1820	0749-48-1961

彦根城博物館	522-0061	彦根市金亀町 1-1	0749-22-6100	0749-22-6520
米原市醒井宿資料館	521-0035	米原市醒井 592	0749-54-2163	
醒井木彫美術館	521-0035	米原市醒井 95	0749-54-0842	0749-54-0842
米原市柏原宿歴史館	521-0202	米原市柏原 2101	0749-57-8020	0749-57-8020
伊吹山文化資料館	521-0314	米原市春照 77	0749-58-0252	0749-58-0252
国友鉄砲の里資料館	526-0001	長浜市国友町 534	0749-62-1250	0749-62-1250
長浜市長浜城歴史博物館	526-0065	長浜市公園町 10-10	0749-63-4611	0749-63-4613
成田美術館	526-0056	長浜市朝日町 34-24	0749-65-0234	0749-65-0234
長浜市曳山博物館	526-0059	長浜市元浜町 14-8	0749-65-3300	0749-65-3440
冷水寺胎内仏資料館	529-0251	長浜市高月町宇根 308-1	0749-85-3209	0749-85-3209
湖北野鳥センター	529-0365	長浜市湖北町今西	0749-79-1289	0749-79-8022
竹生島宝蔵寺宝物殿	526-0124	長浜市早崎町竹生島 1664-1	0749-63-4410	
布施美術館	529-0205	長浜市高月町唐川 339	0749-85-2363	0749-85-2363
ヤンマーミュージアム	526-0055	長浜市三和町 6-50	0749-62-8887	0749-62-8780
白谷荘歴史民俗博物館	520-1837	高島市マキノ町白谷 343	0740-27-0164	0740-27-1000
高島歴史民俗資料館	520-1111	高島市鴨 2239	0740-36-1553	0740-36-1554